

# 光の共演 平成最後の夏

「新時代への鼓動」をテーマに4日、岐阜市の長良川河畔で開かれた「第73回全国花火大会」。岐阜の夜空に打ち上げられた無数の花火は、見上げる多くの観客の顔を色とりどりに照らし出した。平成として最後の夏。会場の観客たちは「来年も変わらず家族みんなで見たい」「次の時代も安心して平和な時代になれば」などと、空一面を彩る大輪に次代への思いを重ねた。

全  
国  
花  
火  
大  
会

# 輝く未来へ



川面を染めた「第73回全国花火大会」のスターマイン＝4日午後8時24分、岐阜市の長良川河畔(撮影・堀尚人)

岐阜市はこの日も最高気温38度の酷暑となったが、日が沈むにつれ心地よく風が吹き、絶好の花火日和に。家族連れらが見守る中、岐阜放送のテレビ放送開始50年を祝う超ワイドスターマインで華やかに幕開けした。

岐阜市正木「連日の猛暑で来るのが少し不安だったが、涼しくて安心した」と、ほっとした表情。帰省し家族4人で来た会社員丹羽優喜さん(32)「名古屋市」は「思い出の全国花火大会に妻と子どもを連れて来られて感慨深い」と話し、妻理恵さん(34)は「最後までたっぷり楽しみたい」と笑顔をはじかせた。

平成最後の夏、観客は次代への期待を大輪に重ねた。物心付いた頃から毎年来ているという、平成元年生まれの会社員林紗希さん(29)「瑞穂市馬場小城町」は8カ月の長男快更ちゃんを連れ家族ら16人で来場。「自分が生まれた時代が終わってしまつ」とさみしさを口にしつつも「息子には新しい時代を元氣いっぱい生きてほしい」と願った。「新しい元号が何になるか楽しみ」と話す竹田葉菜さん(13)「各務原市」は「次の時代も安心して平和な時代になればいいな」と思いを込めた。20年以上毎年



平成最後の全国花火大会を楽しむ来場者＝4日午後7時2分

## 国内外の政財界人も感動



花火を楽しむ柴橋正直岐阜市長(左端)、村瀬幸雄十六銀行頭取(左から3人目)ら＝4日午後7時40分

岐阜市の長良川河畔で行われた「第73回全国花火大会」には、県内外から多くの政財界関係者が訪れ、色鮮やかな大輪に酔いしれた。村瀬幸雄十六銀行頭取は「毎年見ているが年々素晴らしい」と願った。

来ているという無職松下龍三さん(81)、かよこさん(75)夫妻「羽島市竹鼻町」は平成に入ってから孫8人に恵まれたといい、「家族にと

テレビ東京の狐崎浩子ネットワーク局長(57)は「自然の景色の中で見る花火は素晴らしい。地域のひととつながることができてイベントを時代を超えて続けてほしい」と願った。

黒川公男岐阜乗合自動車社長、境敏幸大垣共立銀行専務、加藤茂岐阜信用金庫常務理事、河合孝憲副知事も観覧した。

「平成最後にくさわしい花火だった」と絶賛。柴橋正直岐阜市長も「平成最後の節目の花火を市民の皆さんと共有できる幸せを感じた」と笑顔を見せた。ガブリエル・ドゥケ駐日コロンビア大使(57)は「平和を願い、人生を祝う花火。コロンビア・日本友好110周年の年に国民を代表して観賞でき、うれしい」と喜んだ。

「つて幸せな時代だったと振り返り、「健康に過し」、新元号になる来年も見たい」と、そろって笑顔を見せた。